

令和7年度 第4回磐田市社会教育委員会 摘録

日 時	令和8年3月18日（水）14時00分～16時00分
場 所	ワークピア磐田2階 視聴覚室
出席委員	浅羽委員長、三輪副委員長、高橋委員、山田委員、大場委員、田中委員
事務局	自治デザイン課長、担当職員2名

[会議概要摘録]

1 委員長あいさつ

2 報告および意見交換

(1) 地域づくりの視点からの若者の居場所づくりと体験活動について

(主な内容)

【池田交流センター】

- ・池田地区では、主に小学生・中学生との関わりが多い。
- ・夏休み期間中の交流センターや公会堂4箇所毎日ラジオ体操やこども夏祭り事業、豊田中学校の地域貢献活動の取組ではお化け屋敷を行うなど、様々な取組を行っている。
- ・避難所体験講座では、中学生ボランティアに協力してもらい地域と関わるきっかけになっていると感じている。
- ・学校・地域の連携という点では、防災訓練への中学生の参加が少ない、俳句会等の地域行事への学校の関わりが薄い等の課題がある。
- ・若者と地域の関わりは薄い。交流センターを若者の居場所にするには、場所も職員も不足しており難しいと感じる。地域だけでなくNPO等幅広く協力が必須だと思う。

【青城交流センター】

- ・全住民アンケートの中では、課題の一つとして「こどもの居場所づくり」が挙げられた。
- ・職場体験に来た中学生の意見を参考にし、豊田南中の全校生徒500名を対象に「こどもの居場所づくり」についてアンケートを実施した。
- ・居場所の取組として、青城交流センター内の図書室の見直し、こどもが勉強しやすいように図書室内を整理していきたい。

- ・行政から地域への防災等に関する通知連絡では、地域目線で考えながら情報共有をしてもらえたら嬉しい。
- ・先生方の働き方改革のためか、学校と地域の連携が薄くなっている。学校には、地域イベントに中学生の参加を促していただきたい。

(2) 意見交換

(主な意見)

- ・交流センターを居場所として活用するには、フリーWi-fiが整備されていると良い。
- ・会費を払って学習塾に行ったり、習い事をしている子ばかりでないので、家庭の事情も考慮し、小中学生が気軽に交流できる企画をして欲しい。
- ・交流センターに継続して、若者が来るような仕掛けをお願いしたい。
- ・住民アンケートを実施するなどの工夫があれば、地域住民からの声も届きより良い方向に変えていけると思う。
- ・高齢者と未就園親子の交流などを行っている地域もあるようだが、防災的には、両者ともに弱者だと思うので、中学生など力がある人がそこに関わると災害に強い地域になるのではないか。
- ・小中学校の教頭が「コドモン」により、地域行事への参加者募集等の情報を発信しているので連携するとよい。
- ・学校運営協議会やコミュニティスクール・コーディネーター等の活動の様子を学校だよりや地域づくり協議会だより等により地域住民に伝えることが必要である。
- ・PTAを解散しプロジェクトごとに参加者を募集するなどの動きが見られる。学校・家庭・地域の連携の観点から注視したい。

3 報告事項

(1) 令和8年磐田市「二十歳の集い」の報告について

資料1

(意見交換)

- ・どんな青年にも自信と誇りをもって生きて欲しいというメッセージを伝えるために、大学生だけでなく、就職している方・専門学校生、更には外国籍の方など様々な方に決意表明していただくと良い。

(2) 令和7年度こども・若者育成支援大会の報告について

資料2

(主な内容)

- ・地域で実施している活動が分かるパネル展なども併せて開催すると良い。

4 その他

5 閉会